

No.	種別	委員名	内容	質問への回答
1	質問	加茂副会長	・容器包装プラについて、国の方針として2030年までにマテリアル・ケミカルリサイクル60%という目標があるが、区はどのように持っていくのか。	現在、前期審議会の答申も踏まえ、容器包装プラスチックと製品プラスチックの集積所一括回収の検討を進めているところです。これにより相当量のプラスチックについて現在のサーマルリサイクルからマテリアル・ケミカルリサイクルへの転換を見込んでいます。 現在、排出が見込まれる日量32tを処理するための再商品化事業者や収集運搬に必要に車両の確保など課題解決に向けて、事業者ヒアリングや事業スキームの検討を行っているところです。実施に当たっては、マテリアル・ケミカルリサイクル率の高い再生事業者選定などに取り組んでまいります。
2	質問	岩波委員	・まちづくりセンターに設置してある拠点回収の品目は、統一したほうが効果的なのは。	回収ボックス方式で対象としている品目は白色発泡トレイとペットボトルの2品目になりますが、施設のスペースの都合によりボックスを2つ設置できない場合は、集積所回収をしていない白色発泡トレイを優先に設置しています。 手渡し回収方式を行っている場所は、回収のための施設利用ができること、回収物品の保管倉庫スペースがある施設としています。 今後は、プラスチック分別収集の開始に向けた検討の中で、既存の拠点回収も含めて、より効率的・効果的な回収方法となるよう検討を進めてまいります。
3	質問	渡辺委員	・EPR（拡大生産者責任）について、区はどのように取り組んでいくのか。	国に対し、関係機関を通じてEPRの法整備等について要望事項としてあげているところですが、引き続き機を捉え要望してまいります。

No.	種別	委員名	内容
1	意見	松本委員	・清掃工場と区民がなにか連携できる機会がつかれないか。 →現在、清掃工場と区では、普及啓発施設やイベントなどで連携した取り組みを行っております。清掃工場と区民との連携した取り組みは、他自治体の取組など研究させていただき、提案してまいります。
2	意見	松本委員	・知人が清掃工場を見学した際にSNSでの発信が駄目と言われたと聞いた。SNS発信の有効性を考慮すべき。 →清掃工場を管理運営する東京二十三区清掃一部事務組合に確認したところ、写真撮影そのものは可ですが、無断でSNS等に投稿することは不可となっております。投稿の際には許可が必要とのこと。区からは、SNSの発信効果を考えれば時代に合った対応が必要であることから検討をお願いしました。
3	意見	松本委員	・転入者に分別方法等を教える場があればよい。 →現在、転入時に「資源とごみの分け方・出し方」リーフレット、「資源・ごみ分別案内、収集日のおしらせアプリの紹介」チラシなどを配布し、利用を促しています。また、毎年全世帯に「資源とごみの収集カレンダー」の配布も行っております。
4	意見	加茂副会長	・プラ分別回収は単体プラからなど、できるところから始めていくことが重要。
5	意見	加茂副会長	・生ごみも集めやすいところから回収をはじめるのが良い。
6	意見	加茂副会長	・粗大ごみの回収について、引っ越し業者と連携した取り組みを行っている事例もあるので参考になるのでは。 →過去に区内にも実施している引っ越し業者がいましたが現在は移転により実施いただける事業者がいなくなった状況です。他自治体の事例も参考に事業者と連携した取り組みを検討してまいります。
7	意見	加茂副会長	・何か新たな取り組みを始めるときなどは住民への周知と説明の場をたくさん設けることが重要。自治体はその努力をしてほしい。
8	意見	森委員	・どうしたら関心をもってもらえるかや減量行動につなげることがとても重要である。集合住宅の集積所の一部は分別が徹底されておらず大変。 →現在、転入者に対し「資源とごみの分け方・出し方」リーフレットの配布等を行っております（No.3意見と同じ）。 分別されていない集合住宅がございましたら、排出者や管理会社に分別方法の指導を行っておりますので、管轄の清掃事務所にお問い合わせください。
9	意見	森委員	・年度末、引っ越しに伴う粗大の不法投棄が増えるため、効果的な啓発が重要。 →現在、区のおしらせ「せたがや」等で引越し時のごみの処分についての周知を行っているところです。SNSでの発信や不動産団体への周知など、転出者に直接伝わるような普及啓発について本審議会でもご議論ください。
10	意見	田崎委員	・名古屋市は分別が細分化し徹底している。世田谷も参考になるのではないかと。

No.	種別	委員名	内容
11	意見	伊達委員	・施設見学をしていい機会だった。いろいろな視点で啓発活動が大事である。
12	意見	伊達委員	・島根県のある地区も分別が厳しく有料。経費の大きさを伝えるだけでも効果があるのでは。 →区ホームページにおいて「資源・ごみの処理経費」等について公表しておりますが、引き続き「見える化」の視点も踏まえ区民に伝わりやすい情報提供を行ってまいります。
13	意見	中村委員	・区内には大学が多いので、学生ボランティアが小中学校のリサイクル活動と一緒に参加できると全世代参加型の学習になるのでは。 →現在、食品ロス削減セミナーなど大学生との連携事業などを実施しております。学生ボランティアを募る際に、どのような手段が有効なのか、継続してもらうための要件、活動のマッチング等を課題として認識しています。今後、課題の解決を図りつつ、小中学校での取組みについても検討してまいります。
14	意見	中村委員	・もっと短期の賞味期限でも扱えるフードバンクができると食ロス対策、貧困対策になるのでは。 →現在、事業課で実施しているフードドライブは、回収運搬のスケジュールから賞味期限が2か月以上にしてありますが、各地区や事業者が実施しているフードドライブの中には賞味期限を柔軟に捉えている団体もごいます。当部といたしましては、フードドライブの推進の前に、まずは食品ロスにならないような行動を促していきたいと考えております。
15	意見	三橋委員	・調理くずが多いなど生ごみ減量には余地がある。ディスプレイは課題が多いが、例えば事業者への設置支援なども今後は考えられる。
16	意見	岩波委員	・プラスチックの代替として木材やバイオプラスチックの利用が考えられ、本審議会として事業者利用を促す提案をしてもよいのではないか。
17	意見	岩波委員	・区民の行動変容の前に、職員が率先的行動をすべきである。
18	意見	渡辺委員	・エコフレンドリーショップの取り組みは素晴らしい。商店街単位でエコフレンドリーショップに登録して、量り売り等はコミュニケーションにも繋がる。
19	意見	中山会長	・審議会は、消費者、生産者、自治体それぞれの立場でできることについて意見を言うことができる。
20	意見	中山会長	・フィンランドではバイオ、生ごみは別に回収している。また量り売りやペットボトル回収機利用で割引といったことも、自治体のアイデアで生かされるのでは。

1	感想	松本委員	・施設見学をして、埋立処分場が残り50年のことを知ることができ、意識を変えるきっかけになった。
2	感想	森委員	・町会自治会では施設見学や古着回収、啓発活動等を行っている。今後のより効果的な取り組みについて、次回以降も勉強したい。
3	感想	田崎委員	・コロナ禍前は、世田谷区消費者団体連絡会として年6回ほど衣類のリユース会を実施し好評だった。
4	感想	田崎委員	・世田谷くらしフェスタで映画会を実施。好評だった。
5	感想	田崎委員	・ごみ処理にはお金がかかっているんだという意識をもつことが重要だと感じた。
6	感想	中村委員	・初めての工場見学だったが、プロセスを知ることが清掃活動が身近に感じられる。
7	感想	三橋委員	・行動変容、意識改革の難しさを感じた。
8	感想	中山会長	・諮問内容だけでなく、いいアイデアがあれば発信できればよい。
9	感想	中山会長	・大学教員として教育の重要性は承知している。小さい子ども向けの教室は家庭にも広がる。
10	感想	中山会長	・各委員、資料の出典元を辿ってもらうとより詳しい情報が確認できるのでぜひ見てほしい。